

令和7年度 京都府立向陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○家庭や地域社会から信頼され、期待される安全・安心で魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>○一人一人の生徒の個性と能力を最大限に伸ばし、将来の夢や可能性を広げる確かな学力をつける。</p> <p>○知徳体美のバランスのとれた生徒を育成し、すべての生徒がよりよい社会の構築に貢献できる力をつける。</p>	<p>○ICT機器を活用して校内の情報交流を行う体制が整った。わかる授業、伸ばす授業のための活用も進んできているが、一層の研究を進めていきたい。授業での活用もまた、DXハイスクール事業の一環としてKo-lab. ルームを整えることができた。今後は運用方法の検討、活用に取り組んでいきたい。</p> <p>○総合的な探究の時間は、向日市や第5向陽小学校、企業と連携しながら計画的に進められた。教職員全体で指導内容や指導方針について共通理解を図り、生徒の活動をより効果的にサポートできる体制を整えたい。</p> <p>○生徒会を中心に学校祭の時期や内容を見直すことで、行事の活性化と生徒の主体性の伸長が図れた。今後も、生徒の力を引き出した、生徒起点の行事改革や学校ルールの見直しを進め、向陽らしい活気のある学校作りにつなげていきたい。</p> <p>○特に志望理由書の作成や面接指導等、自分自身について適切に表現し進路実現につなげられる力の育成につながる組織的な取組を進めることができた。次年度は、他の教育活動の成果と関連付けた、体系的な進路指導に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>○分掌部長を中心にした中学校訪問や生徒の姿が見える学校公開を実施し、中学校や中学生・保護者に丁寧な情報発信を行った。今後は、費用対効果の高い広報の在り方を研究し、向陽の魅力発信を行っていきたい。</p>	<p>●向陽文化の深化 向陽ならではの文化を大切にし、一層の魅力につなげていくために、今年度は特に以下の文化・校風に重点をおいて、さらに深化させるための具体的方策を検討、実践していく。</p> <p>① 明るく活力のある、また、穏やかで落ち着いた「高校としての理想」にあふれた校風 ② 生徒会を中心とした生徒の主体性が育つ「学校行事文化」 ③ 地域社会とつながりながら展開する「アントレプレナーシップ」に富む学びの文化 ④ 人生の課題解決能力獲得のための「読みかけの本を持つ」文化</p> <p>●主体的に生きる人が育つ、向陽の学びの場の追求 日々の授業、総合的な探究の時間、生徒会活動、部活動等、主体的・対話的で深い学びの実践の場を持つ向陽の学びの場において、今年度は特に以下に重点的に取組み、「生徒起点」の改革を進め、主体的な学習者の育つ学びの場としてさらに深化させる。</p> <p>① 学習指導要領の趣旨実現、特に「主体的な学習者育成」の具体策の検討と実践。 ② 生徒指導要領の趣旨実現、特に「発達支持的生徒指導」の具体策の検討と実践。</p> <p>●向陽の魅力発信 ○「費用対効果の高い広報」を実践し、向陽の魅力を地域、中学生、保護者に発信することで、「選ばれる向陽高校」を目指す。 ○向陽の魅力を校内の教職員・在校生・保護者、校外の地域小中学校・地域企業・地域社会で共有、再発見する機会を創出する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	日々の授業を大切にするとともに、ICT機器活用をさらに推進し、基礎学力の向上を図る。	日々の授業、総合的な探究の時間などの学びの場で、主体的な学習者育成のための具体策の検討と実践を、ICT機器なども積極的に活用し進めていく。また、学習ツールの活用をとおして、個別最適な学習をすることで、全体の基礎学力の向上を図り、生徒の自己実現につなげていく。	B	主体的な学習者育成に向け具体策の検討を行い、授業でのICT機器の活用や評価方法の研究に着手し、生徒の学びの改革に取り組んだものの、その成果は十分とは言えない状況であった。引き続き、ICT機器や学習ツールの効果的な活用について検討を進め、全校的に展開できる体制づくりを加速させていく必要があり、また、個別最適な学習についても研究していきながら、生徒の基礎学力の向上と自己実現に向け取り組んでいきたい。
	総合的な探究の時間を中心に探究活動を進め、生徒の自己実現につなげる。	教育推進部学年担当者を中心に、総合的な探究の時間の担当者が効果的に授業をすすめることができるようにする。これまでの取組を踏まえ、より具体的な指導計画の提示や関係諸機関との連携等を深め、他者につながる力を十分に育成できるよう担当者間で連携を密にして取り組む。	A	
生徒指導	規律を重んじる学校風土を作り、主体的・自律的に行動できる生徒を育成する。	向陽祭や各種イベントなど、生徒会が主体的に取り組める環境をサポートする。部活動の活動を支援し、生徒の主体的な学びや経験の場を確保する。生徒指導日より日々の注意喚起をとおして、規範意識の醸成を図ることで学校内での行動規範を明確にする。生徒やPTAと、校則やSNSの問題について協議し、よりよい学校作りを進める。	B	向陽祭をはじめとする各種学校行事において、生徒会が主体的に企画・運営できるよう環境を整え、教職員が必要に応じて支援を行った。特に文化祭においては一般開放を実施し「他者の視線」を意識した企画・運営を行い、生徒たちからは自らの手で文化祭を創り上げたという達成感を感じられ、教育的にも大きな意義のある行事となった。また、校則見直しに係る取り組みでは、スマートフォンの使用に関して、生徒会が主体となって実証実験を実施し、生徒全体を巻き込みながら進める姿が見られ、今後もさらに生徒会活動について活性化していきたい。
	生徒の成長を促す指導等、積極的な生徒指導の充実を図る。	発達支持的・課題予防的生徒指導の観点から、身だしなみ点検や遅刻指導をおこない、基本的生活習慣の確立を図るとともに、立ち番や校内巡回等全教職員体制での生徒指導（見守り）を行う。また、いじめを含む様々な生徒の課題に対し、組織的な対応・情報共有を進め、生徒の成長に期する指導を行う。	B	
進路指導	3年間の具体的な進路指導計画を学年部をはじめ他分掌の協力を得ながら実行し、生徒の希望進路実現に向け丁寧な進路指導を行う。	年度当初に年間進路指導計画を生徒に伝え、進路目標や進路計画を把握させ見通しを持たせる。進路行事を柱として計画的・具体的な進路学習を設定する。志望理由書や面接、プレゼンテーションや小論文対策を充実させ、生徒が自己を振り返りながら主体的に行動し意欲的に学校生活を送ることができるようポートフォリオを作成させ総合型選抜入試対策を充実させるとともに、学習クラブを設立する等成績上位層の牽引にも力を入れる。進路行事や進路指導部日よりなどのホームページ掲載も件数を増やし、向陽高校の丁寧な進路指導や生徒の高い満足度を中学生やその保護者に周知できるようにする。大学や業者とも積極的に連携し、進路指導の質を高める。	B	見通しをもった効果的な進路学習の実施に向け、主要な行事だけではなく、事前・事後の取り組みも含めた年間指導計画を提示した。国公立大学志望生徒を対象として「勝ちゼミ」を設立しサポート体制を整備した。また、総合型選抜を利用する生徒を対象として面接・志望理由書・小論文等の説明会を実施するなど、個別指導にも力を入れ、一定の成果を収めた。生徒の進路学習の様子をホームページ・SNS・さくら連絡網を連動させて発信した。
人権教育	自己と他者を尊重する態度を培う。	講演や視聴覚教材を用いて、多様性を認め合う心を醸成し、他者を尊重できるよう、自らの行動指針を考えさせる。各教科等の教育活動の中で人権意識を涵養し、望ましい人間関係を形成する。	A	情報モラル、障害への理解、同和問題、貧困問題、労働と基本的人権などを3年間で学ぶことができるように人権学習を設定し、各講演等を通して、何が問題でどのように考え行動すべきかを生徒に伝えることができた。しかし、日常的な場面で他者に配慮した言動があたりまえにできるような働きかけが、生徒によってはまだ十分にはできていない部分があり、他者を慮る力の涵養が課題としてあげられ、より一層の人権教育の充実が必要である。
環境教育	環境教育の充実と学習環境の整備に努める	学習環境を整える態度を養い校内の環境美化を充実させるため、日常の清掃活動とともに学校行事前後の大掃除を徹底する。また、各学期に美化委員による教室美化点検や保健委員による教室の二酸化炭素濃度の測定を行う。さらに、文化祭等の機会を用いて環境問題についての啓発活動を積極的に行う。	B	日常の清掃区域を時期ごとに見直して分担し、学校全体の清掃状態を概ね良好に保つことができた。また、清掃活動が円滑に進むように用具の整備や整理をすることができた。今後は、清掃が充分でない箇所がないか再点検し、清掃活動の充実を努めたい。生徒による保健・美化委員会では、教室の二酸化炭素濃度の測定・消毒液の補充や花壇の水やり等の活動のほか「委員会だより」を発行した。また、文化祭では、保健委員会による「スポーツテストの結果」の展示発表をしたり、美化委員生徒が「SDGSカルタ大会」を実施するなど、委員会活動の活性化をはかることができた。
健康・安全	生徒の健康状態の把握と支援体制の充実	健康診断や健康相談等をおして生徒の健康状態を把握し、関係機関・分掌と連携しながら健やかな学校生活を送ることができるよう支援する。また、保健部研修会で教育相談に関する理解を深め、支援体制を充実させていく。	B	健康診断の結果や健康相談等を通して、生徒の健康状態の把握に努め、その改善のために必要に応じて家庭や学年団と連携した。また、毎月「保健室だより」を発行し、健全な学校生活を送るための情報を発信した。さらに、教職員の教育相談や特別支援教育に関する理解を深めるため、スクールカウンセラーによる研修会や京都府スーパーサポートセンター専門委員による講演・オンデマンド研修を実施した。特別な支援が必要と思われる場合には、京都府スーパーサポートセンターや地域支援コーディネーター、まなび・生活アドバイザーからの助言を得て、生徒理解や支援に役立てることができた。
学校図書館	図書館が持つ図書・学習・情報センター機能により教育活動を支える。生徒が本や人と出会い、交流し、世界を広げていく場としての図書館の機能を充実させる。	各教科と連携し、探究型学習での図書館利用を活発にする。また「府立図書館電子書籍サービス」（生徒の端末で利用可能）を導入し、生徒が主体的に進路学習、推薦入試対策、就職試験対策等に取り組めるよう支援する。全校生徒が本に接する機会を増やす取組として、2階・3階中央廊下に図書コーナーを設置し、ニーズや興味・関心に合わせて適宜内容を更新する。また各ホームルーム教室向けに図書館蔵書のセット貸出を行う。	B	国語・数学・社会・英語の授業において、図書館の資料を用いて情報を集めレポートを作成するなどの探究的な学習が行われた。今後も多くの授業で活用されるよう、各教科からの要望も取り入れて資料の充実をはかりたい。また京都府立図書館電子書籍サービスを全校生徒が利用できるように導入し、授業や進路学習での利用が始まっており、今後も利用を促進していきたい。同時に紙の本、電子書籍、インターネット、AIの使い分けについても支援していきたい。図書コーナーや学級文庫を設置し、生徒が本に触れる機会を増やすことができた。図書委員会の活動は、「全校生徒と本をつなぐ役割になる」ことを目標に企画展示、イベントなど様々なことに取り組んだ。
危機管理	安全設備の整備状況の確認	校内に設置している防犯設備について、定期的に点検を行うとともに、操作マニュアル等を整備し、担当者不在の際も教職員が操作・確認できるよう安全対策を図る。また、校内2箇所に設置しているAEDについて、いつでも正常に使用できる状態にしておくため、点検項目を定め月例点検を実施する。	A	防犯設備については、定期的な点検と操作マニュアルの整備により、担当者不在時でも教職員が操作・確認できる体制を構築できた。AEDについても、点検項目を定め、月1回の月例点検を実施することで、常に正常に使用できる状態を維持し、緊急時の対応力を向上させた。今後は、点検の継続性を確保する仕組みづくりや、教職員の操作習熟度を高めるための訓練の実施が必要である。
家庭・地域社会との連携	地域や中学校に対して、積極的に広報活動を行い、向陽高校の魅力を発信する。	学校の雰囲気、日常、授業、学校行事、部活動等の魅力を写真や動画を使って、HPやSNSで広報していく。地域や中学生などより多くの人に向陽高校をまずは認知してもらうために、近隣だけでなく、京都市内のJR沿線、阪急沿線の学校に学校説明会のチラシ配布や、進路学習会の提案を行う。	A	公式SNSの開設、学校案内配布資料の充実、学校説明会の実施方法など広報のあり方を大きく変更した。公式SNSでは、InstagramやTikTokの投稿数が当初の目標数を大きく上回り、中には反響が大きい動画もある。SNSの発信については、今後も仕掛けづくりなど継続的に取り組んでいきたい。中学校にて行われる進路学習に広く参加することや、学校説明会の充実によって一定の手ごたえは感じるものの、さらなる発展に向け、校内体制の調整が必要である。

学校関係者評価委員会による評価	学校運営や広報活動等に対し、校長をリーダーとして組織的に取り組んでおり、今後の発展が期待される。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	教育課程の魅力化を図り、動機・意欲を育てる学校に向け、体験・体感を重視しながら、授業改革及び特別支援の観点での教育改革を行う。また、生徒会を中心とした主体的活動について支援し、行事・部活動等の活性化を図るとともに、安定した人間関係の構築に向け伴走する。「生徒発信隊」の活性化や魅力の言語化により、より一層の広報活動に取り組む。
---------------	---